

人民元建て 中国ソブリン債券ファンド

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	単位型投信／海外／債券
信託期間	2008年8月15日から2016年9月6日まで（当初、2018年8月14日まで）
運用方針	<p>①主として、中国の人民元建て短期債券に投資する投資信託証券のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円建債券に投資を行います。</p> <p>②原則として、ユーロ円債の組入比率を高位に保つことを基本とします。ただし、組み入れたユーロ円債の発行体の格付が著しく低下した場合等には、当該ユーロ円債を途中売却し、組入比率を大幅に引き下げることや、組み入れたユーロ円債の発行体の変更をすることがあります。</p> <p>③委託会社は、ユーロ円債が参照する投資信託証券がその信託を終了させることとなった場合及び設定を取止めた場合、ならびに当該債券の発行体等の信用状況の著しい悪化もしくは債務不履行等があり当該債券を全て売却した場合等は、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。</p> <p>④投資環境によっては、委託会社の判断で、主要投資対象への投資を大幅に縮小する場合があります。</p>
主要投資対象	投資信託証券のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債
主な組入制限	株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のいずれか多い額とします。</p> <p>②分配金額は、委託会社が、基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p>

最終期（償還日 2016年9月6日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「人民元建て中国ソブリン債券ファンド」は、信託約款の規定に基づき、2016年9月6日をもちまして繰上償還いたしました。ここに謹んで設定以来の運用状況と償還の内容をご報告申し上げます。
今後とも当社商品につき引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル



<http://www.sjnk-am.co.jp/>

お問い合わせ先



クライアントサービス第二部 0120-69-5432

（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）

■ 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	基 準 価 額			受 益 者 利 回 率	債 券 組 入 率	元 残 存 本 率
		税 分 配 金	期 騰 落	中 期 騰 落 率			
(設 定 日) 2008年 8 月15日	円 10,000	円 -	円 -	% -	% -	% -	% 100.0
1 期 (2009年 8 月14日)	8,613	0	△1,387	△13.9	△13.9	98.2	76.8
2 期 (2010年 8 月16日)	7,745	0	△ 868	△10.1	△11.2	92.7	60.2
3 期 (2011年 8 月15日)	7,281	0	△ 464	△ 6.0	△ 9.1	91.6	46.6
4 期 (2012年 8 月14日)	7,439	0	158	2.2	△ 6.4	95.1	34.1
5 期 (2013年 8 月14日)	9,426	0	1,987	26.7	△ 1.1	94.5	24.1
6 期 (2014年 8 月14日)	9,891	0	465	4.9	△ 0.2	96.4	19.1
7 期 (2015年 8 月14日)	11,296	200	1,605	16.2	2.1	97.4	11.5
8 期 (2016年 8 月15日)	9,029	0	△2,267	△20.1	△ 1.0	89.5	7.3
(償 還 日) 2016年 9 月 6 日	(償還価額) 8,842.13		△ 186	△ 2.1	△ 1.2	-	6.9

(注1) 基準価額の騰落額及び騰落率は分配金込み。

(注2) 基準価額及び分配金は1口当たり(以下同じ)。

(注3) 受益者利回りは、基準価額(分配金込み)の当初元本(10,000円)に対する騰落率を年率換算したものです。

(注4) 当ファンドは、中国の人民元建て短期債券を投資対象とする投資信託証券のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債を主要投資対象としており、特定の指数等との比較は行っていないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

■ 最終期の基準価額と市況等の推移

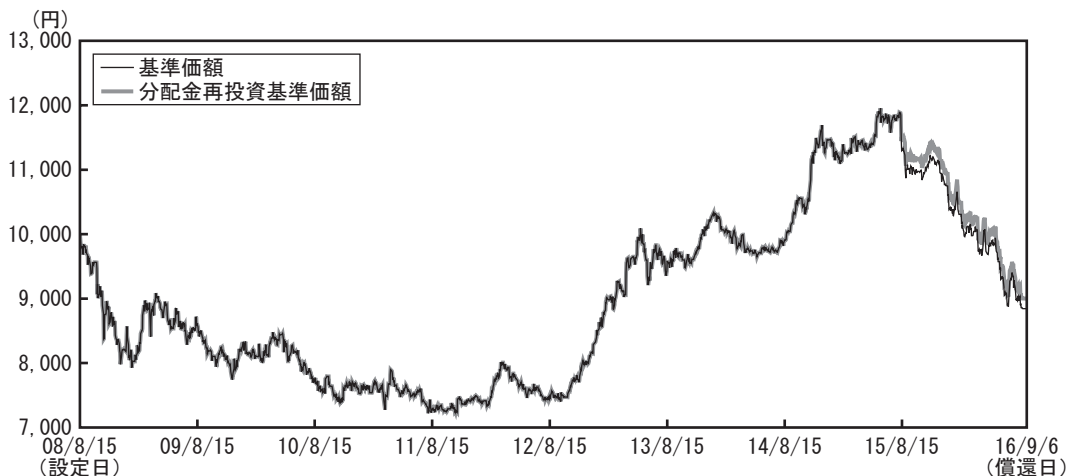
年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		債 券 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首) 2016年 8 月15日	円 9,029		% -	% 89.5
8 月 末	8,844	△2.0		-
(償 還 日) 2016年 9 月 6 日	(償還価額) 8,842.13	△2.1		-

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 当ファンドは、中国の人民元建て短期債券を投資対象とする投資信託証券のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債を主要投資対象としており、特定の指数等との比較は行っていないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

設定以来の運用経過（2008年8月15日（設定日）～2016年9月6日（償還日））

■ 基準価額の推移



設定日：10,000円
 償還日：8,842円13銭（期中分配金合計200円）
 騰落率：△10.0%（分配金再投資基準価額ベース）

- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・単位型投資信託は実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。
- ・当ファンドは、中国の人民元建て短期債券を投資対象とする投資信託証券のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債を主要投資対象としており、特定の指数等との比較は行っていないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

■ 基準価額の主な変動要因

第1期：2008年8月15日～2009年8月14日

（人民元建て中国ソブリン債券ファンド）

ルクセンブルグ籍の投資信託証券「フォルティス フレキシィーⅢ チャイナ ソブリン ボンド ファンドRMB（円建て）」のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債（以下ユーロ円債）に投資を行った結果、当期の基準価額は下落しました。

（ユーロ円債）

人民元の対ドル相場は、期中下落する場面もありましたが、概ね横ばいに推移しました。しかし、ドル円相場でのドルの下落により、人民元の対円相場が下落したことから、ユーロ円債の価格は下落しました。

第2期：2009年8月15日～2010年8月16日**(人民元建て中国ソブリン債券ファンド)**

ルクセンブルグ籍の投資信託証券「フォルティス フレキシィーⅢ チャイナ ソブリン ボンド ファンドRMB (円建て)」のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債に投資を行った結果、当期の基準価額は下落しました。

(ユーロ円債)

ユーロ円債は、期初よりドルが対円で下落する中、弱含みで推移しました。2010年春先にはドルが対円でドル高方向に振れたこともあり、一時的に値を保つ場面もありましたが、期末に向け再びドルが対円で大きく下落する中、ユーロ円債の価格は下落しました。

第3期：2010年8月17日～2011年8月15日**(人民元建て中国ソブリン債券ファンド)**

ルクセンブルグ籍の投資信託証券「BNP PARIBAS FLEXI Ⅲ CHINA SOVEREIGN BOND RMB (円建て)」(以下、参照ファンド)のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債(以下、ユーロ円債)に投資を行った結果、当期の基準価額は下落しました。

(ユーロ円債)

ユーロ円債は、期中5回にわたる利上げで、中国国債には逆風の環境でしたが、参照ファンドに組み入れられている残存期間1年以下の国債が、償還が近づくにつれて価格を戻したことから、利上げの影響は認められませんでした。しかしながら、期初よりドルが対円で下落した結果、ユーロ円債の価格は下落しました。

第4期：2011年8月16日～2012年8月14日**(人民元建て中国ソブリン債券ファンド)**

ルクセンブルグ籍の投資信託証券「BNP PARIBAS FLEXI Ⅲ CHINA SOVEREIGN BOND RMB (円建て)」のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債に投資を行った結果、当期の基準価額は上昇しました。

(ユーロ円債)

人民元建て債券市場は、追加の金融引き締めへの警戒から、2011年9月までは債券価格がじりじりと値を下げる展開となりました。10月以降は欧州債務危機の深刻化や、世界景気に対する不透明感が強まったことなどから投資家の安全志向が高まったことに加え、中国国内で消費者物価上昇率および不動産価格上昇率が落ち着きを取り戻したことから金融緩和への期待が高まり、人民元建て債券市場は堅調に推移しました。また、人民元が対円で上昇したこともユーロ円債の上昇要因となりました。

第5期：2012年8月15日～2013年8月14日**(人民元建て中国ソブリン債券ファンド)**

ルクセンブルグ籍の投資信託証券「BNP PARIBAS FLEXI Ⅲ CHINA SOVEREIGN BOND RMB (円建て)」のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債に投資を行った結果、当期の基準価額は上昇しました。

(ユーロ円債)

期の前半はレンジ内での動きが続きました。2013年6月に中国銀行間取引市場での流動性逼迫に

より、銀行間金利が上昇したことで短期債券市場も軟調な展開となりました。ただし、人民元高円安が進行したことがユーロ円債の上昇要因となりました。

第6期：2013年8月15日～2014年8月14日

(人民元建て中国ソブリン債券ファンド)

ルクセンブルグ籍の投資信託証券「BNP PARIBAS FLEXI III CHINA SOVEREIGN BOND RMB (円建て)」のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債に投資を行った結果、当期の基準価額は上昇しました。

(ユーロ円債)

主に、人民元高円安が進行したことなどがユーロ円債の上昇要因となりました。

第7期：2014年8月15日～2015年8月14日

(人民元建て中国ソブリン債券ファンド)

ルクセンブルグ籍の投資信託証券「BNP PARIBAS FLEXI III CHINA SOVEREIGN BOND RMB (円建て)」のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債に投資を行った結果、当期の分配金再投資基準価額は上昇しました。

(ユーロ円債)

主に、人民元高円安が進行したことなどがユーロ円債の上昇要因となりました。

第8期：2015年8月15日～2016年8月15日

(人民元建て中国ソブリン債券ファンド)

ルクセンブルグ籍の投資信託証券「BNP PARIBAS FLEXI III CHINA SOVEREIGN BOND RMB (円建て)」のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債に投資を行った結果、当期の基準価額は下落しました。

(ユーロ円債)

主に、人民元安円高が進行したこと等がユーロ円債の下落要因となりました。

最終期：2016年8月16日～2016年9月6日

(人民元建て中国ソブリン債券ファンド)

ルクセンブルグ籍の投資信託証券「BNP PARIBAS FLEXI III CHINA SOVEREIGN BOND RMB (円建て)」のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債に投資を行った結果、当期の基準価額は下落しました。

(ユーロ円債) (2016年8月16日～2016年8月19日※)

主に、人民元安円高が進行したこと等がユーロ円債の下落要因となりました。

※上記期間は、ユーロ円債の実質的な投資期間です。

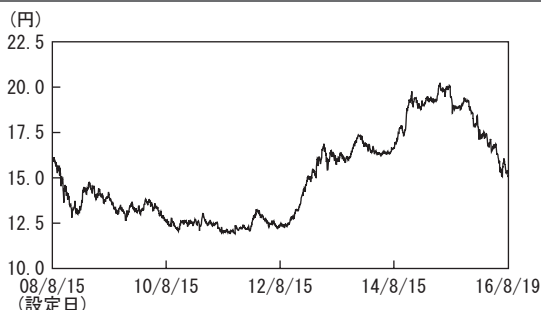
■投資環境

第1期：2008年8月15日～2009年8月14日

期初より、グローバル市場が混乱する中、人民元の対ドル相場は、米ドルが乱高下した影響を受け、日中の値動きは大きくなりましたが、終値ベースでは比較的安定的に推移し、1ドル＝6.80～6.85元台でのレンジ相場となりました。2008年12月に入り、中央銀行が人民元の中心レートを2008年8月以降で最も安い水準に設定したことから、中国当局が人民元の下落を目指すとの観測が広がり、人民元はドルに対し、1ドル＝6.88元台まで下落しました。その後、商務相が「輸出企業の支援は人民元の下落に依存しない」と言明したことや、当局は急激な資本流出を防ぐため、元の安定維持を望んでいるとの観測が強まり、人民元の対ドル相場は徐々に落ち着きを取り戻し、年末に1ドル＝6.82元台となりました。年明け以降も、当局が人民元の安定を望んでいる姿勢を示したことから、人民元は当期末にかけて安定的に推移しました。

一方、ドルは円に対して、軟調に推移しました。期初、1ドル＝110円台のドル円は、2008年12月にかけて大幅に下落し、1ドル＝90円を割り込みました。年明け以降、ドルは上昇基調となり、4月初旬には一時1ドル＝100円を超えたものの、その後再び下落基調となり、当期末は、1ドル＝95円台となりました。

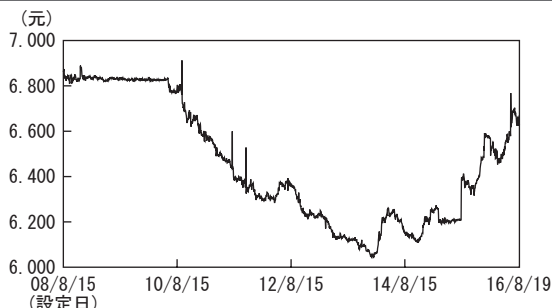
人民元レートの推移（対円）



(出所：投資信託協会)

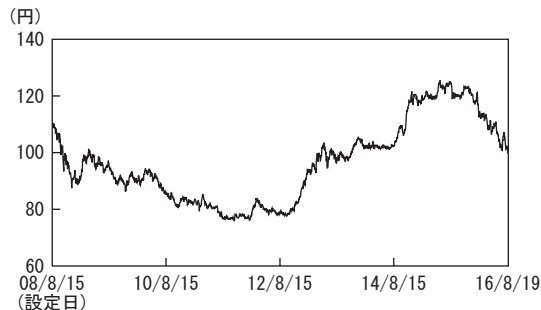
(注) 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

人民元レートの推移（対米ドル）



(注) Bloombergおよび投資信託協会のデータに基づき委託会社が作成しております。

米ドルレートの推移（対円）



(出所：Bloomberg)

(注) 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

第2期：2009年8月15日～2010年8月16日

期初より中国人民銀行の管理の下、1ドル=6.83元前後で安定的に推移してきた人民元の対ドル相場は、2010年6月に約2年に及ぶ事実上の固定相場の終焉を迎えました。これを受けて人民元の対ドル相場は1ドル=6.77元割れの水準まで強含みました。しかし、期末にかけて中国の景気拡大にかげりが見えてくると、中国人民銀行が中心レートを元安方向へ設定したこともあり、1ドル=6.8元まで接近しました。

一方、米国が低金利政策を維持する中、ドルは対円で期初より弱含みで推移し、2009年11月末には86円台を付けました。その後、米国経済回復の兆しが見えてきたことを材料にドルが強含む局面もありましたが、欧州で起こったソブリンリスク問題に端を発した世界経済減速懸念が台頭し、再びドルは対円で売り優勢となり、期末には85円台となりました。

第3期：2010年8月17日～2011年8月15日

当期の人民元の対ドル相場は1ドル=6.79元から6.39元へ上昇しました。期中、中国人民銀行は5回の利上げを行い、2011年7月の利上げで1年物貸出基準金利は6.56%、1年物預金金利は3.50%となりました。利上げは、中国消費者物価指数が急激に上昇していることへの金融引き締め策であり、中国の景気減速が見られる中、中国人民銀行はインフレ抑制が最優先課題であることを明確にしました。度重なる利上げや、中国当局が輸入コストを抑制するため元高を容認するとの見方が市場で強まったことなどから、人民元は期を通して緩やかな元高へと誘導されました。

一方、ドル円相場は、ギリシャに端を発した欧州財政問題、米国の景気減速、新興国のインフレ懸念などから、ドル売り円買いの動きに拍車が掛かり、円は対ドルで1ドル=76円台前半まで上昇し、史上最高値を窺う展開となりました。

第4期：2011年8月16日～2012年8月14日

物価上昇を抑制するため、中国当局が元高を容認するとの観測を背景に、2012年4月末にかけて人民元は対ドルで上昇しました。中国の消費者物価指数（CPI）が政府目標を下回ったことに加え、中国経済の成長速度に減速の兆候が見られ始めたことから人民元は下落に転じましたが、期を通じては小幅上昇となりました。対円では、2012年1月末にかけては、為替レートを動かす材料がなかったことから、人民元はほぼ横ばいで推移しました。その後は日銀が追加金融緩和策を発表したことや、米国で良好な経済指標の発表が相次いだことなどを背景に、投資家のリスク選好が高まり、人民元は上昇しました。期末にかけては、世界的な景気減速感の強まりやギリシャ情勢の混迷などからリスク回避の動きが強まり、円買い・人民元売りが進みましたが、期を通じては人民元が対円で上昇となりました。

第5期：2012年8月15日～2013年8月14日

期の前半は、中国経済の回復基調を示唆する経済指標が相次いだことで、追加金融緩和策への期待が後退したことや、中国人民銀行が人民元高を容認するスタンスを取り始めたことなどを背景に、人民元は対米ドルで上昇しました。また、日本では2012年12月の新政権誕生後に金融緩和観測が強まったことや、実際に日銀が異次元金融緩和を行ったことに加え、米国の良好な経済指標の発表を背景に円安ドル高が進行しました。その結果、期を通じて人民元は対円で上昇しました。

第6期：2013年8月15日～2014年8月14日

期の前半は、中国の経済指標の改善を受けて景気回復期待が広がったことや、11月の貿易黒字が約4年ぶりの高水準に達したことなどから、人民元は対米ドルで1993年以来の高値を付けました。しかし2014年2月以降、中国景気の鈍化や、地方財政をめぐるデフォルト（債務不履行）リスクの高まりなどから、ドルに対して急速に人民元安が進行しました。その後、海外からの資金流入観測や、2014年4－6月期GDP成長率が市場予想を上回るなど中国景気の持ち直しの兆しが広がったことを背景に、期末にかけて人民元は値を戻しました。

第7期：2014年8月15日～2015年8月14日

期初からしばらくは、人民元は米ドルに対してほぼ横ばいで推移しましたが、2014年11月から2015年2月にかけて、中国景気の減速懸念を背景に中国人民銀行（中央銀行）が政策金利や預金準備率を引き下げたこと、堅調な米国経済を好感して米ドルが買われたことなどから、人民元安が進行しました。3月に入ると、中国共産党の指導部が人民元の安定を目指し、世界で人民元の利用を促す考えを示したことや、中国人民銀行総裁が中国景気の下支えに向け金融政策の余地があると表明したこと等が好感され、人民元は対米ドルで反発し、その後はほぼ横ばいで推移しました。しかし、8月11日から13日にかけて中国人民銀行が人民元取引の基準となる対米ドルの為替レートである基準値を合計で約4.5%切り下げたことから、人民元は大きく下落して当期を終えました。

第8期：2015年8月15日～2016年8月15日

期初から10月にかけて、人民元は対円、対ドルで概ね横ばいで推移していましたが、11月に入ると、米国の12月利上げ観測が高まったことから対ドルで下落し、12月以降も中央銀行が人民元を中心レートを引き下げたこと等を受けて、人民元は対円、対ドルで大きく下落しました。2016年1月から2月にかけては、世界的な株安や原油安の影響から市場のリスク回避姿勢が強まり、人民元安円高が進行しました。3月は中国経済が安定化しつつあるとの見通しが強まり、人民元は対円、対ドルで一旦下げ止まりました。しかし、4月以降は中央銀行が人民元を中心レートを引き下げたことに加え、6月の英国の国民投票によるEU（欧州連合）離脱の結果を受けて、市場のリスク回避姿勢が強まったこと等を背景に、人民元は対円、対ドルで再び大きく下落して期末を迎えました。

最終期：2016年8月16日～2016年8月19日

中国人民銀行（中央銀行）が人民元を中心レートを2ヶ月ぶりの高水準に設定したことや、米国の早期の追加利上げの見通しが遠のいたことなどから、米ドル安人民元高が進行しました。

一方で、米ドルが円に対して下落したため、人民元は対円で下落しました。

（当ファンドの主要投資対象であるユーロ円債の実質的な投資期間における投資環境を記載しています。）

■当該投資信託のポートフォリオ (人民元建て中国ソブリン債券ファンド)

当ファンドは、中国の人民元建て短期債券を投資対象とする投資信託証券のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債を主要投資対象とし、信託財産の中長期的成長を目指して、積極的な運用を行いました。ユーロ円債の組入比率を高位に保ち、2016年8月下旬にユーロ円債が満期償還した後は、キャッシュによる安定運用を行いました。

(ユーロ円債) (2008年8月15日～2016年8月31日※)

ユーロ円債の参照ファンドでは、残存期間1年以下でかつ残存期間の異なる国債を複数組み入れたポートフォリオを構築しましたが、当ファンドの繰上償還に伴い組入銘柄を全部売却しました。

※ユーロ円債の償還日。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、中国の人民元建て短期債券を投資対象とする投資信託証券のパフォーマンスに値動き等が概ね連動するユーロ円債を主要投資対象としており、特定の指数等との比較は行ってないため、ベンチマークおよび参考指数は記載していません。

■分配金

分配金につきましては、基準価額水準等を勘案し、第1期から第6期および第8期は無分配とし、第7期に1口当たり200円の分配を実施いたしました。

<償還を迎えて>

当ファンドは、2016年9月6日をもちまして信託期間を終了し、繰上償還とさせていただくこととなりました。受益者の皆様のご愛顧に心より御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

■ 1口当たりの費用明細

項目	最終期		項目の概要
	(2016年8月16日~2016年9月6日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	6円	0.065%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は8,867円です。
(投信会社)	(1)	(0.016)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(4)	(0.047)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(0)	(0.002)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.001	(b) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(0)	(0.001)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.000)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	6	0.066	

(注1) 期中の費用 (消費税のかかるものは消費税を含む) は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買及び取引の状況

○ 公社債

(2016年8月16日から2016年9月6日まで)

		買 付 額	売 付 額
国		千円	千円
内	社 債 券	—	— (142,276)

- (注1) 金額は受渡代金（経過利子分は含まれておりません）。
 (注2) () 内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。
 (注3) 社債券には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。
 (注4) 単位未満は切捨て。

■ 主要な売買銘柄

該当事項はありません。

■ 利害関係人との取引状況（2016年8月16日から2016年9月6日まで）

当ファンドにおける当期中の利害関係人との取引はございません。

■ 組入資産の明細

最終期末（2016年9月6日現在）における当該事項はございません。

■投資信託財産の構成

(2016年9月6日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	150,556	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	150,556	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および償還価額の状況

(2016年9月6日現在)

項 目	償 還 時
a 資産	150,556,520円
コール・ローン等	150,556,520
b 負債	98,879
未払信託報酬	98,512
未払利息	367
c 純資産総額(a - b)	150,457,641
元本	170,160,000
償還差損益金	△ 19,702,359
d 受益権総口数	17,016口
1口当たり償還価額(c / d)	8,842円13銭

(注1) 2008年8月15日設定、設定当初元本額2,463,090,000円、当期首元本額180,040,000円、元本残存率(期末元本額の設定当初元本額に対する割合)6.9%

(注2) 償還時における1口当たりの純資産総額 8,842.13円

(注3) 償還時における元本の欠損金額 19,702,359円

■損益の状況

(2016年8月16日から2016年9月6日まで)

項 目	最 終 期
a 配当等収益	150,646円
その他収益金	153,246
支払利息	△ 2,600
b 有価証券売買損益	△14,093,848
売買損	△14,093,848
c 有価証券評価差損益	10,865,140
d 信託報酬等	△ 99,349
e 当期損益金(a + b + c + d)	△ 3,177,411
f 前期繰越損益金	△17,484,296
g 解約差損益金	959,348
h 合計(e + f + g)	△19,702,359
償還差損益金(h)	△19,702,359

(注1) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注2) 解約差損益金とは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

■信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2008年8月15日			投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2016年9月6日			資産総額	150,556,520円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	98,879円	
受益権口数	246,309口	17,016口	△229,293口	純資産総額	150,457,641円	
				受益権口数	17,016口	
元本額	2,463,090,000円	170,160,000円	△2,292,930,000円	1口当たり償還金	8,842円13銭	
毎計算期末の状況						
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1口当たりの分配金		
				金額	分配率	
	円	円	円	円	%	
第1期	1,891,780,000	1,629,398,126	8,613	0	-	
第2期	1,483,430,000	1,148,853,334	7,745	0	-	
第3期	1,147,230,000	835,344,147	7,281	0	-	
第4期	839,130,000	624,201,191	7,439	0	-	
第5期	593,020,000	558,974,733	9,426	0	-	
第6期	470,890,000	465,764,859	9,891	0	-	
第7期	282,460,000	319,075,766	11,296	200	2.00	
第8期	180,040,000	162,555,704	9,029	0	-	
信託期間中1口当たり総収益金及び年平均収益率				総収益金	収益率	
				△957円87銭	△1.19%	

■償還金のお知らせ

1口当たりの償還金（税引前）	8,842円13銭
----------------	-----------